

地域医療支援センターだより

第9号
平成25年
春号

“訪問看護係は、病院から地域に飛び立ちます”

私が働く訪問看護係は、訪問診療や訪問看護を担う部署です。医師や看護師が患者さんのご自宅を訪問し、看護ケア等の提供は勿論ですが、家族の不安や悩みについても、家族の立場に立って、共に考えることを積極的に行っています。

当院では患者さんの疾患に応じて、その専門分野の医師が訪問し診療を行うことがあります。これは、本人、家族にとって心強いサポート体制です。また、各専門看護師も同行し、皮膚排泄ケア（人工肛門、褥瘡など）や緩和ケア（疼痛緩和、療養相談、不安の傾聴など）や高齢者の関わり方について、最新の専門的知識も交えながら、日常のケアや生活指導を共に行なっております。

当院は、介護施設にも定期的に訪問し、診療や処置を提供すると同時に、相互の情報交換も積極的に行なっております。これは施設との連携を深める良い機会にもなっています。

以上のように地域医療支援センター訪問看護係は総合病院である強みを活かし、多職種の専門的な知識や情報を広く地域に提供するように心掛けています。そして、在宅であっても、施設であっても、地域の中で、安全、安楽に生活が継続できるように支援させていただきたいと思っております。その中で、在宅生活の素晴らしさを少しでも多くの方に感じていただければ幸いです。



地域医療支援センター訪問看護係
看護師長 木下真由美

のと七尾

“ワールドカフェ”参加いたしました

北陸中日新聞H25・1・21

七尾市内の様々な分野の企業から参加者を募り、七尾市活性化のための意見交換が行われました。能登病院代表として、当支援センターから、地域連携係岡下が参加しました。カフェのようなくつろいだ雰囲気の中で、初対面ながら自由に会話を弾ませ、各職種の観点から、色んな意見を交わしました。普段なら話し合うことのない他職種の方々との交流は、当病院にとって新しい気付きや共感があり、業務や生活の視野を広げるのに良い刺激となりました。また、地域医療を支える立場としても、今後の業務内容を改めて見つめ直すきっかけにもなり、とても有意義な会でした。



街の課題や振興策を話し合う参加者＝和倉温泉観光会館で

七尾市 語り合う振興策

各界参加「ワールドカフェ」

病院、市役所、旅館など進行役を合わせ、45名が参加。

平成25年1月19日(土)
於：和倉温泉観光会館

お知らせ

施設基準「がん治療連携計画策定料」届出完了いたしました

「がん治療連携計画策定料」、および「がん治療連携指導料」は、がん診療連携拠点病院等を中心に策定された地域連携診療計画に沿ったがん治療に関わる医療機関の連携により、がん患者に対して地域における切れ目のない医療が提供されることを評価した施設基準項目です。「共同診療計画表」と「私のカルテ手帳」を用いて、かかりつけ主治医と能登病院の担当医が共同で診療にあたります。患者さんは計画表にもとづき双方の医療機関がご支援いたしますので切れ目のない医療を安心して継続していただけます。

がん治療連携計画策定料1 750点

計画策定病院からの退院時または退院日から30日以内に紹介した場合

→①



①治療計画の作成



がん治療連携指導料 300点

患者個別の治療計画に基づく診療を行ない、計画策定病院に診療に関する情報(治療経過等)を提供した場合
→②、③

②診療情報の提供



③治療計画の変更



がん治療連携計画策定料2 300点

患者の状態の変化等により計画の変更が必要となり、連携医療機関から計画策定病院に紹介され、計画の変更を行った場合→③

④診療情報の提供



算定開始 平成25年2月1日

テーマ：「地域医療支援センター」

川柳のコーナー

♪ 朝ドラに
負けないドラマの
毎日です

♪ 入口と
出口がつながる
支援センター

♪ 叶えたい
「住み慣れたうち」
最期まで

♪ あきらめない
えん下評価で
食べる楽しみ

♪ 使い分け
かかりつけ医と
能登病院

♪ 能登病院
バトンの行手は
開業医

♪ (番外編)
恵方巻き
意味も分からず
まるかぶり



地域医療支援センターのモットーは”つなぐ・つながる・つなげる“です
院内外の皆様と手と手を取りあって繋がっていきたくと思います。

皆様 仲良く仲良く！ よろしくお願ひします！